

職員が作ったAI 基盤で、誰でも簡単に業務効率化！

自治体の業務での生成AI 活用

生成AI の業務利用には、**情報漏洩リスク**や**コスト面**の課題がつきものでした。世田谷区では、Microsoft のサービスを活用し、**職員自らがAI 基盤を構築**。安全性と経済性を両立しながら、課題を克服しました。

Microsoft サービスで安全・低コストな構築されたAI 基盤が進むことで...

01 情報漏洩リスク をシャットアウト

構築されたAI 基盤は、区のネットワーク内で通信が完結する仕組みになっております。これは、情報セキュリティを重視する自治体にとって**大きな安心材料**です。

生成AI 利用にあたる想定されるリスクを回避する措置を実施

- ✓ 利用した情報が生成AI の学習に使われる
- ✓ ネットワーク通信途上の情報漏洩リスク など
- ✓ 外部のサーバーに利用した際の情報が残る

※なお、リスクは大幅に低減されていますが、原則、個人情報の処理には生成AI を使用しないというルールを設けています。

02 限られた予算 で最大の効果を発揮

従来のユーザーライセンス型 の生成AI サービスと比べて、**利用コスト**を大幅に削減。より多くの職員が生成AI を活用できる環境が整いました。

※ユーザーライセンス型：利用者（職員）の数に応じて料金が発生するサービス形態

親しみやすいAI キャラクター

「Hideki」登場！

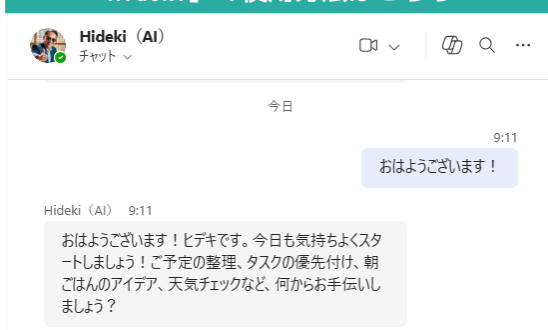
生成AI との対話をより身近に感じてもらうため、職員が開発したチャットボットには、親しみやすいキャラクター「Hideki」を設定。また、職員が普段使っているチャットツールから直接話しかけられるようにしました。

「生成AI は難しそう」「とっつきにくい」と感じる方でも、「ちょっと面白そう」と気軽に試せるような、楽しく触れられる環境を整えています。



明るくポジティブ、自分を若いと思っている、絵文字使いがた

「Hideki」の使用方法はこちら



職員が自ら開発！さらなる活用へ

▶▶ 下のような機能も区職員自らが開発中！

- ✓ 職員向け問合せ対応チャットボット
- ✓ 生成 AI への指示するための文章を考えずに使える機能

こうした取り組みにより、生成AI の活用がより広がり、業務の効率化や区民サービスの向上につながっています。今後も、生成AI 技術の利活用について、継続的に情報発信していきます。ぜひご注目ください！